

自序

先般、私は衆議院議員在職二十五年の故をもって、院議により表彰されました。身に余る光栄に存じております。

私が初めて衆議院に議席を得たのは、昭和二十七年秋のことでありました。例の公職追放令解除後はじめて施行された第二十五回総選挙で、私は初陣ながら当選することができました。

当時わが国は、はげしかったインフレを一応収束したものの、国土は荒廃し、国民生活は貧しく、人心はまだ恟恟たる状態でありました。しかしサンフランシスコ条約が発効して、占領状態に終止符が打たれ、漸く本格的な戦後経営が始まるうとしておりました。

それから二十五年の歳月が流れ、わが国をめぐる内外の状況には大きい変化が見られました。何よりもまず経済は、国際化の進む中で自立を達成したばかりでなく、空前の成長を記録し、成長による公害、都市、社会問題等が大きい問題になってまいりました。国民生活も従って急速に向上し、社会も各局面にわたって大きい変貌を来しました。

政治は中央地方を通じて議會制民主主義がともかくも確立し、國民の意識と生活の中に定着するようになってきました。わが国の國際的地位にも著しい向上が見られ、わが国の大國としての影響力と責任はいよいよ明確になってまいりました。

その二十五年間、私は健康に恵まれて引き続き衆議院の議席を守り通すことができ、政府と党を通じて重要な任務を与えられ、内政・外交両面にわたって、いささか國家にご奉公することができました。

これひとえに、先輩同僚のご恩顧とご友情の賜物であります。とりわけ郷里の支持者の皆様のおゆるりご支援によるもので、ここに改めて心から感謝するものであります。

この際、私は先輩同僚のご恩顧とご友誼に應えるため、何を為すべきかにつき色々思案いたしました結果、ここ数年間における私の演説や講演、提言や感想の類を一書にまとめて、ご高覧に供することに思い至りました。私は数年前、還暦を記念して同様の試みを『旦暮芥考』のタイトルの下でさせて頂きました。従つてこの小著はそれ以後の分をまとめたものになります。まとめるに當つては何れもできるだけ原文のままにしてありますが、文意を一層明瞭にするため、若干の訂正ないし加除した部分もあることをご承知頂きたいと存じます。お暇の折にこゝ一読賜り、ご教示を頂くよすがともなれば幸いです。

なお、私の三男明が去る十一月四日、上原家から吉子を迎え、新しい家庭をもつことになりました。私の政治生活は、たまたま明の生い立ちと軌を一つにしております。その明が新しい所帯をもち独立することになったことに私は格別の感慨を覚えておりますので、明と吉子にこの小著を捧げることにいたしました。

この小著のとりまとめに当っては、私の秘書団とりわけ安田正治君、自民党幹事長室の奥島貞雄君、佐藤テル子さん等から多大の助力を得ました。また鹿島出版会が、このたびもこの小著の出版をお引受け頂き、特に同出版会の河相全次郎編輯局長と橋義雄部長の両氏には親切かつ有益なご助言とご協力を賜りました。ここに記して、これらの方々に心から感謝の意を表するものがあります。

昭和五十二年十二月吉日

大 平 正 芳